

農大同窓会報

発行所
愛知県立農業大学校同窓会
岡崎市美合町字並松1-2
電話(0564) 51-1601
編集発行人
同窓会長 野田留美
印刷所 広済堂ネクスト
電話(06) 7178-0530

ごあいさつ



会長 野田留美

同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より同窓会活動へのご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の農業情勢においては相変わらず混沌としているという印象です。その根底には深く国の政策が関わっているわけですが、気候変動の影響も大きくのしかかります。

特に一昨年から「令和の米騒動」に翻弄された方は多いと思います。近年の異常な猛暑は私たちの生活や農作物の管理にも影響を及ぼしました。

スーパーの棚からはお米が消え、価格は倍以上に跳ね上がり、

マスコミはお米の値段が高くなったと騒ぎ立てました。

その結果、相対的に「お米は安いのが当たり前」という既成概念から、「農業はそれなりにコストがかかるものだ」という意識が広まったようにも感じています。

ところが最近になってまた米価が下落してきているのを見るにつけ、どうしてこのような現象が起こるのか、このカラクリの根底には何があるのか見極める力が必要なのだと思います。

ところで皆さんは「産地は移動する」という言葉をご存じでしょうか？

地球温暖化などの気候変動によつて主要作物の産地が北や高地へと徐々に移動するという現象です。その結果、従来の主産地が不利になり、より涼しい地域へと新たな産地を形成していきます。そこで取られる農業側の対応の一つが品種の転換であり、

暑さに強い品種の導入が進められています。お米農家の私にとつては、馴染みのある「あさひの夢」や「ゆめまつり」が県の奨励品種から廃止されたという聞きなれたとき少しショックでした。これらに代わって登場したのが暑さに強い「あいちのこころ」です。今後「あいちのこころ」は急速に普及していくことでしょう。

さらに果樹ならば、どんな南国フルーツが導入されていくように思います。すでにアボカドやコーヒーの木に着目している農家さんもあるようです。

農業の様相が変わるにつれ、スマート農業技術についてもさらに進化し発展していくでしょう。それは担い手の減少を補う技術でもあるからです。

話は変わりますが、県農大での生活を熟知している同窓会の皆様にお願ひがあります。近年学生数が定員割れをしています。今年度は定員100名のところ、一年生が81名、二年生が89名となっています。すでに来年の入学希望者確保のため、先生方も

各高校に出向き広報しています。さらにオープンキャンパス等でPRしているところですが、少子化の波はここにも表れています。

最近では農家出身が2割、非農家出身が8割と非農家出身の学生が増加傾向ですが、就職先は充実していると思います。

農業農地を守るためにもこれからの担い手育成は急務です。農業高校生やその保護者、一般高校生で食や環境、動物、SDGsに関心がある層等、お心当たりがありましたら是非県農大をお勧めしてください。就職就職の強さやキャリアの実績、スマート農業技術の習得、現場



ごあいさつ

同窓会員の皆様

校長 加藤 友康

この4月から校長を務めることになりました加藤と申します。同窓会員の皆様方には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から、野田留美会長を始め、同窓会の役員、会員の皆様方には、本校の円滑な運営に格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本校は、昭和9年に追進農場として創設されて以来、今年で

での実践教育や学生同士の交流等良いところはいっぱいあると思います。皆で農大を支えましょう。

そして私から農大を卒業した皆様へ、農業の現場で困って息詰まったとき、新しい技術の導入を迷ったとき、青春を過ごした場所、未来に向かって進路を決めた場所としてもう一度振り返り、いつでも帰って来られる県農大であつたらいいなと思っています。今年度の農大祭は12月5日土曜日です。たまには懐かしい母校を訪ねてみませんか？

最後になりますが、同窓会の皆様の益々の発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

92年を迎えます。この歴史と伝統をしっかり受け継ぎ、教育研修業務の運営にあたることに、同窓会の活動を全力でサポートしてまいりますので、同窓会員の皆様方におかれましては、歴代校長と同様、御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

卒業生の進路

令和7年度の卒業式を3月6日(金)に執り行い、農学科の

学生75名が新たな進路に進みま
した。

卒業生の進路は、75名中25名
が就農（自営就農、農業法人等
への雇用就農）し、JA等への
就職が46名（うち就農前提の一
時就職6名）、研修が2名、他
県農大への進学が2名で、進路
決定率は100%でした。

本県農業の担い手として、ま
た、農業を支える人材として、
卒業生の今後の活躍を大いに期
待しています。同窓生の皆様に
は、卒業生への温かい御指導と
御支援をお願いいたします。

近況報告

令和8年度は、新たに81名の
1年生を迎え入れ、4月8日
（水）に入学式を挙行いたしま
した。新入生にとっては、緊張
の中にも晴れやかで思い出に残
る一日になったのではないと思いま
す。

新入生が加わり、新2年生と
合わせて、本年度の在校生は
170名となりました。学習面、
生活面ともに様々なことにチャ
レンジできるような、学生にと
って有意義で充実した1年にな
ることを期待しています。

また、5月28日（木）、29日
（金）の2日間、「東海近畿地
区農業大学校学生スポーツ大会」
が、大阪府で開催されました。
本校から68名の学生が参加し、

団体の部では野球で優勝、バレ
ーボール、バドミントンの2種
目で準優勝、個人の部では卓球
男子・女子各シングルス及びバ
ドミントン男子シングルス・男
子ダブルスで優勝するなど、多
くの種目で優秀な成績を収める
ことができました。この大会を
通じて、本校学生の団結力が高
まるとともに、他府県の学生と
の交流促進が図られたことは、
とても有意義な経験になったの
ではないかと思っています。

学生募集

全国的に農業大学校の入学者
数が減少する中で、本校におい
てもここ数年、定員を下回る入
学者数で推移しています。

農業に夢を抱く意欲ある学生
を一人でも多く確保するため、
本校では、6月から8月及び翌
年2月にかけて計5回のオープ
ンキャンパスを開催するなど、
来年度の学生募集に向けた様々
な取組を行ってまいります。

令和4年度の学生募集からは、
特別推薦入試制度（農業系高等
学校後継者等特別推薦入学試験）
を改正し、非農家出身であつて
も就農（雇用就農も含む）意欲
が高く在学中に農業クラブやク
ラブ活動に精力的に取り組んだ
者の推薦（特別推薦Ⅱ）を加え
ています。

また、インスタグラムやX

（旧ツイッター）といったSNS
を活用して、学生自らが日頃
の実習や学校生活の様子を情報
発信するなど、本校の魅力を積
極的にPRしております。ぜひ
一度ご覧いただき、皆様方の
フォローをお願いいたします。

最後に

近年の中東情勢の影響による
燃料や資材価格の高騰に加え、
自然災害や気候変動の影響も重
なり、現在の食料生産が不安定
な状況にある中で、改めて「食
の大切さ」が問いかけられてい
ます。

こうした中で、本県農業を支
える優秀な人材の養成を担う本
校の使命は、益々重要なものと
考えています。この使命を着実
に遂行するため、創意工夫や改
善を図りながら、教育内容の一
層の充実と円滑な学校運営に努
めてまいりますので、同窓会の
皆様におかれましても一層の御
支援、御協力をいただきますよ
うお願い申し上げます。

最後に、同窓会会員の皆様の
更なる御活躍と御繁栄を心から
祈念申し上げます。
今後とも、よろしくお願い申
し上げます。

◆◆令和8年度理事会だより◆◆

令和8年2月6日（金）午前
10時30分から、令和8年度農業
大学校同窓会理事会が本校中央
教育棟会議室において開催され
ました。

まず、第1号議案から第5号
議案の内容について配付した資
料により審議していただき、す
べての議案について異議なく承
認されました。また、長きにわ
たる農大及び農大同窓会への御
尽力に対する感謝の意を込め、
同窓会より柴田隆夫様に感謝状
及び記念品料を贈呈しました。
各議案と主な内容は以下のと
おりです。

○第1号議案 令和7年度事業
報告

・同窓会報第41号の発行

・役員会・理事会の開催

・卒業生記念品贈呈

・同窓会員の表彰

・農業大学校同窓会全国連盟総
会等への参加

○第2号議案 令和7年度会計
決算報告

○第3号議案 令和8年度事業
計画

・同窓会報第42号の発行

・役員会・理事会の開催

・卒業生記念品贈呈

次期理事会

開催のお知らせ

同窓会規約により、令和9年
度は次のとおり開催予定です
で、理事の皆様は出席をお願い
します。

日時 令和9年2月5日（金）

午前10時30分から

場所 愛知県立農業大学校

中央教育棟会議室

東海近畿ブロック
同窓会長会議報告

令和8年度の東海近畿ブロック農業大学校同窓会長会議が京都府福知山市で令和8年6月11日(木)から12日(金)にかけて開催されました。

会議は、東海近畿ブロック農業大学校校長会議と合同開催され、初日の全体会議では決算報告や事業計画等の協議の後、京都綾部 仁の緒 代表 櫻井善仁氏による「地域農業と農業大学校の連携について」と題した講演が行われました。

さらに、校長会議と同窓会長会議の分科会議がそれぞれ開催され、活発な議論が交わされました。

2日目は、府内にて先進的な農業に取り組んでいる京都綾部 仁の緒と、ベジタブルプレイスの見学が行われました。

令和8年度
役員名簿

会長	野田 留美 (大研一〇)	副会長	高木 宏道 (大研九)	会計監事	伊藤 真二 (大農二九)	事務局長	星川 優 (大農三六)	書記	富永 康典 (専八)	会 計	岡本 貴幸 (大農二五)	顧問	加藤 友康 (校長)	顧問	長尾 周幸 (元校長)	名誉顧問	稲葉三千夫 (校長)	顧問	鈴木 良憲 (校長)	顧問	落合 秀彦 (校長)	顧問	村井 智子 (校長)	顧問	林 綺 (校長)	顧問	伊藤 茂樹 (校長)	顧問	犬飼 唯士 (校長)	顧問	山田 勝 (校長)	顧問	鈴木 敏之 (校長)	顧問	藤井 潔 (校長)	顧問	三浦 貞志 (校長)	顧問	友松 啓二 (校長)	顧問	堤 公生 (校長)	顧問	鷹羽 靖夫 (校長)	顧問	石橋 良洋 (校長)	顧問	恒川 靖弘 (校長)	顧問	島岡 勝隆 (前校長)	顧問	柴田 隆夫 (前会長)
----	--------------	-----	-------------	------	--------------	------	-------------	----	------------	-----	--------------	----	------------	----	-------------	------	------------	----	------------	----	------------	----	------------	----	----------	----	------------	----	------------	----	-----------	----	------------	----	-----------	----	------------	----	------------	----	-----------	----	------------	----	------------	----	------------	----	-------------	----	-------------

同窓会名簿新規発行の
廃止について

個人情報保護のため、同窓会名簿の新規発行を廃止します。会員様の情報の提供については、同窓会員ご本人であることや使用目的が適正であること等を確認した後、提供させていただきますので、名簿データを必要とされる方は、下記の方法で同窓会事務局に申請をしてください。

- ①名簿が必要な方は、同窓会事務局に御連絡ください。
- ②同窓会事務局から「同窓会名簿利用申請願」を送付します。(郵送又はメール)
- ③必要事項を記入の上、本人の確認ができる書類(免許証の写真等)を添付の上、郵送又はメールで申込み
- ④本人同意が得られた後、データを提供します。

なお、平成26年11月に発行した同窓会名簿の購入を希望される方は、同窓会事務局へお問い合わせください。

お問い合わせ先 同窓会事務局
☎0564-5111602

農業大学の近況
(人数は入学時点)

1 概況

令和8年度の教育部農学科の学生数は1,2年生あわせて170名で、そのうち女子は53名で31%となっています。

専攻別学生数は表1に示したとおりで、果樹・野菜・酪農専攻の学生数が多い傾向にあります。また、酪農、養豚・養鶏専攻は女子学生の割合が高く、女子の人気の高さがうかがえます。

一方、企画研修部では、Uターンや他分野からの新規就職支援、離職者等への農業に関する再就職訓練など長期間の就業支援研修を2つ開講しています。令和8年度は2研修で計45名が受講しています。また、福祉事業所職員が施設の栽培ほ場を運営するのに必要な基礎知識及び技術を行う作業者にわかりやすく伝える手法を身につけることを目的とした農福連携支援研修を開講し、12名が受講しています。

本校キャンパス内では、農学科の若い学生から社会人経験のある研修生まで、幅広い年齢層の人々が学んでいます。

2 農学科の入学状況

本校では、意欲の高い学生を確保するため、オープンキャンパスや緑の学園研修、県内各JA広報誌への学生募集の掲載など

を実施しています。そうした取組の結果、本年度は、定数100名に対し92名の志願者があり、試験の結果、81名が入学しました。うち、専業及び兼業農家子弟の学生は15名で入学者全体の19%、非農家出身者は81%となっています。また、女子学生は27名(33%)で、県内農業高校出身者は38名(46%)でした。(表2参照)

3 農学科卒業生の進路状況

本校では、1年生のうちから進路セミナー等を実施して、進路の方向付けや就職活動の支援を行っています。令和7年度農学科卒業生の進路状況は表3のとおりです。75名の卒業生のうち、親元や農業法人など就職した者は、予定者を含めると31名で全体の41%にあたります。また、就職した卒業生の多くは、農業関連企業や団体に就職しました。

本校では職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施して、多くの農業法人等から求人をしていただき、学生の就職等を支援しています。同窓生の皆様からの求人をお持ちしております。

農学科各グループの近況

【花きグループ】

(鉢物・緑花木専攻)

ガラス温室や遮光ハウスなど約1600㎡の施設と300㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等200種類以上の品目を栽培

表1 令和8年度農学科の専攻別学生数（単位：人）

専攻名	1年生	2年生	計
鉢物・緑花木	6 (3)	7 (0)	13 (3)
切花	0 (0)	9 (2)	9 (2)
作物	7 (1)	6 (1)	13 (2)
果樹	15 (4)	15 (4)	30 (8)
露地野菜	15 (5)	15 (3)	30 (8)
施設野菜	16 (5)	14 (2)	30 (7)
酪農	14 (7)	16 (11)	30 (18)
養豚・養鶏	8 (2)	7 (3)	15 (5)
計	81 (27)	89 (26)	170 (53)

（ ）内は女子の人数で内数

表2 農学科の入学生数の推移

入学年度	入学者数	女子学生数		農家子弟数	
		人数	割合	人数	割合
R2	104	28	27%	29	28%
R3	83	24	29%	27	33%
R4	76	25	33%	18	24%
R5	91	29	32%	25	27%
R6	79	24	30%	19	24%
R7	92	28	30%	19	21%
R8	81	27	33%	15	19%

表3 農学科卒業生の進路状況

卒業年度		R3	R4	R5	R6	R7
就農	後継者	10	8	3	6	4
	農業法人	23	24	18	22	21
	一時就職後就農	13	8	6	10	6
	就農計	46	40	27	38	31
	就職	44	30	38	41	40
研修	3	2	2	3	2	
進学	7	0	1	4	2	
その他	1	2	0	0	0	
計	101	74	68	86	75	

培しています。
在籍者13名
（1年生6名、
2年生7名）
のうち専業農
家出身者は2
名で、普通科
高校卒業者も
多くいます。
専攻実習で
は、1年生の
7月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、
緑花木」の4つの部門に分かれ、
学生からの「新たな品目や技術
にチャレンジしたい」などの意見
や発想を積極的に取り入れるこ
とで、実習作業内容の充実を図
っています。
本年度は、継続課題として「花
苗の鉢上げ回数と品質及び労働
時間の削減効果」
をプロジェクトテーマとして取り



組む学生もいますが、
、学生それぞれのアイデアを生
かし、品質向上や低コスト化、
省力化など農業経営の改善に繋
がるよう取り組んでいます。
（切花専攻）
約1500㎡の温室と200㎡
の露地ほ場でキク、バラ、スト
ック、ヒマワリを主体に、カーネ
ション、ケイトウ、ペニバナ、ガ
ーベラなど、10種類以上の植物
を栽培しています。
在籍者9名（1年生0名、2
年生9名）のうち、専業農家の
子弟は3名います。今年は1年
生が入学者がいませんが、2年
生が責任を持つてほ場管理を行い、
切花を栽培しています。2年生
はキク、バラ、洋花の3部門に
分かれて、秋までにプロジェクト
学習に取り組めます。

【野菜グループ】 （露地野菜専攻）

実習で毎朝
収穫した切花
は、週2回
（月、金曜
日）、市内の
花き市場に出
荷しています。
また、毎週水
曜日に実施す
る実習販売で
は、切花加工
演習で習得した技術を生かして
自分たちで作った多品目を組み
合わせた花束も販売しており、
お客さんの反応を楽しみにしな
がら、意欲的に取り組んでいます。



【施設野菜専攻】

技術に挑戦しています。
近年の異常降雨に対応するた
め、プランタイラーによる深耕を
行い、水はけを改善しています。
また、作柄安定のため土壌診断
に基づく施肥量の適正化と、夏
期の遊休期間を利用して緑肥を
栽培しています。

（施設野菜専攻）

1年生16名、2年生14名の計
30名が在籍し、約30aの温室で、
主にトマト、ナス、キュウリ、メ
ロンを栽培しています。本専攻
では、養液土耕栽培の他に産地
で普及しているココバグ栽培や
袋培地栽培などにも取り組んで
います。また、令和2年度に統
合環境制御システム「プロファ
ムコントロール」を導入した
ICT温室を建設しました。
本専攻では、主に7月から育
苗を始め、8月に定植し、翌6
月まで栽培する長期作型に取り
組んでいます。そのため、1年
生の夏休み前には、プロジェクト
学習のテーマを各自で考えます。
2学期以降、各学生に担当の温
室や品目を割り当て、責任を持
って栽培管

用すると
もに、暖房
機の更新に
合わせて、
炭酸ガス発
生機を導入
し、本格的
な環境制御



理や調査等
を行います。
本年度は、
「果柄捻枝
技術による
大玉トマト
の裂果抑制
について」



【作物・果樹グループ】 （作物専攻）

1年生7名、2年生6名の計
13名の学生で、1haの大区画水
田をはじめ大小9区画、計33ha
の水田で、大型機械を利用した
水稲、小麦、大豆の栽培に取り
組んでいます。
1年生は水稲栽培に関する基
本知識を身に付けられるよう実
習を進め、2年生はプロジェクト
学習に取り組む、卒論としてま
とめていきます。

そのため、2年生になると各
学生は担当するほ場を持ち、責
任を持って作業や栽培管理、生
育調査等を行う体制となっています。
不耕起V溝直播栽培や化学肥
料及び化学農薬を使用しない栽
培方法の検討などをテーマとし
て取り組み、高生産性及び付加
価値の高い技術に取り組んでい
ます。

また、近年は農機メーカーの
協力も得て
営農支援シ
ステムの活
用などスマ
ート農業の
学習にも力
を入れています。



〔果樹専攻〕

1年生15名と2年生15名の計30名の学生で、2.5haの露地ほ場においてブドウ、ナシ、モモ、カキなど県内主要品目を栽培しています。また、イチジク、ミカン、ブドウのハウス栽培も行われており、県内の果樹営農類型の多くを学生は学ぶことができます。多様な樹種と栽培方式のため、開花期から収穫前の7月までは摘果や袋掛け、ホルモン処理など管理作業に学生たちは多忙な毎日を送っています。

6月に入ると順次収穫が始まりますが、いずれの果実も実習販売では人気商品で、買い求めるお客様の列が絶えません。

学生は、入学当初は数多くの樹種の基本的な技術を学びますが、プロジェクト学習ではテーマを決めて、より専門的な知識・技術を習得します。本年度のテーマとして、①「ナシにおけるLED灯による夜蛾対策」②「果樹のポット栽培の検討」などに取り組んでいます。



〔畜産グループ〕

〔酪農専攻〕

乳用牛約50頭（経産牛25頭、育成牛25頭）、肉用牛23頭（繁殖

3頭、肥育10頭、育成10頭）の計70頭前後の牛を1年生



14名と2年生16名の学生が飼養管理しています。また、約3haの圃場でトウモロコシや牧草など自給飼料生産も行っています。

学生の多くは非農家出身で、本校に入学して初めて牛に触れることもあります。1年生も、2年生や専攻の先生の助言を受けながら飼養管理技術を身につけていき、夏休み前にはしっかりと管理できるようになっています。

生き物の世話、特に搾乳作業は、年間を通して休みなく毎日の当番制で回していくため、実習時間数は全専攻の中でも突出しています。その中でも学生たちは、自分たちで名付けた牛たちを名前呼びかけながら愛情いっぱいに飼養し、どの農場よりも人懐っこい牛群が形成されています。

フリーストール牛舎で、牛がより過ごしやすい環境を整えており、今後もアニマルウェルフェアを意識した飼養管理を実践し、生産への波及効果を期待しています。

〔養豚・養鶏専攻〕

養豚コースでは1年生3名、

2年生3名の計6名が在籍し、豚の交配から分娩、育成、肥育、出荷



に至るまでの一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。繁殖は全て人工授精で行います。豚をしっかりと観察することで、健康に育てるだけでなく、逆に豚の出すサインから多くのことを学んでいます。また、自分たちが育てた豚肉の食味試験を行うことによつて、おいしい豚肉づくりに役立てるとともに、畜産加工実習を行い、ハムやソーセージの製造実習も行っています。

養鶏コースでは1年生5名、2年生4名の計9名が在籍し、ウインドウレス鶏舎、開放鶏舎で、白玉・赤玉鶏、卵用名古屋コーチン等を合計約2400羽飼育し、採卵鶏の飼養管理技術について学んでいます。1年生は、入学間もない5月に1200羽の雛の餌付けを行いました。この雛は、9月になると、本年度新調したケージシステムに移動して卵を産み始めます。毎週水曜日に行われる実習販売では、学生が、自ら世話した鶏の卵をお客様に直接販売することにより、接客や直販での売り方を学んでいます。



農大祭

農大祭2025を開催

令和7年12月6日（土）午前9時から午後1時まで、「ぶちまける自分の心に秘めたモノ」をテーマに「農大祭2025」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、風もなく穏やかな日となりました。午前8時30分の受付開始とともに、お目当てのブースや整理券を求めて来場される方がたくさんお見えになり、多くのブースで早くから長い行列ができました。



した。また、今回初めて来賓として来校いただいた愛知県知事の開会宣言後、販売が開始され、盛況の中、約2,800名の方が来場されました。

学生が丹精込めて育てた農畜産物の直売ブースは毎年大変好評です。体育館では切花専攻のキクやバラ、鉢物・緑花木専攻のシクラメンやポインセチア等で埋め尽くされ、たくさんの方々が目的の花を買い求めました。

テントブースでは、ハクサイやキャベツ、トマト、ナス、ナシなどの野菜や果物、加工品を始め、養豚・養鶏専攻の名古屋コーチンの鶏卵、作物専攻の米等を買求める多くの姿が見られ、両手に抱えきれないほどの多くの農産物を持った来場者であふれていました。

食品バザーでは、農大で穫れた農作物を使用した、五平餅や





豚汁、牛串、肉巻きおにぎり、プリンなどたくさんさんの美味しいメニューが並び、来場者のお腹を満たしていました。

来賓、協賛・出展団体、保護者、来場者等、皆様の多大な御

協力により大盛況のうちに終わることが出来ました。ありがとうございました。

農大祭2026について

今年も12月5日（土）に「未来へつなぐ農のチカラ」をテーマに農大祭を開催します。

農大祭2026への協力について

農大祭実行委員会では、同窓会会員の皆様から協力を募っております。

ぜひとも皆様のご協力をお願いいたします。

●協力の金額

一口 1,000円

（一口以上でお願いします。）

●振込先

金融機関 あいち三河農業協

同組合 美合支店

口座名義人 農大祭実行委員会

会長 加藤 友康

口座番号 普通

0036083

●払込期限

令和8年11月12日（木）

※振込で御協力をいただく場合は、各金融機関の振込用紙を御利用いただくとともに、御氏名の前に「同窓会 ドウソウカイ」と御記入ください。なお、振込手数料についても御負担くださるようお願いいたします。

ヤンマー学生 懸賞作文で 銅賞を受賞しました

第36回ヤンマー学生懸賞論文・作文（作文の部）で松田周直さん（施設野菜専攻）が銅賞を受賞しました。松田さんは、「ジャガイモから芽生えた僕の農業への興味」と題して、「農業を通じて『待つこと』の大切さを学んだ」こと、「天候や病害虫など、思い通りにならない現実を『受け入れる強さ』を学んだ」ことなど、自身の人生観の根幹を形成する学びを農業から得たことが述べられていました。審査員からは、「避けられない出来事を仕方ないと諦めるのではなく、次にどう立ち向かうかを考えることの大切さ」まで言及していることを高く評価していました。普段は語られない農業に対する学生の思いを発表する場として、これからも積極的に応募して欲しいです。

東海近畿地区農業大学校 学生スポーツ大会 大阪大会



今年度の東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会は、5月28日（木）・29日（金）に大阪府のJ・COM末広体育館で開催されました。

この大会は、スポーツを通じて連帯意識と学生の健全な活動を助長し、たくましい次代の農業を背負う担い手を育成することを目的とした、長い歴史をもつ大会です。

競技種目は軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、綱引きの6

種目で、本校は全種目に参加しました。

競技では互いに相手を尊重し、フェアプレイ精神で臨むなど礼儀正しい試合を行うことができました。

愛知農大は兵庫と争う強豪で知られています。

昨年度はすべての団体の部で優勝または準優勝、個人の部でも賞状7枚。

今年度は打倒愛知を目標にしてか、各県全力でした。

そんな中、日頃の練習の成果とチームワークで各種目よく頑





張りました!! 団体種目では、野球は見事8連覇を達成!! バレーボールはキャプテン負傷の中でも準優勝。バドミントンもチーム力で準優勝。バスケットボールは三位決定に敗れて悔し涙。今年度初種目の綱引きは惨敗、初代王者は開催地大阪に持つて行かれました。

個人戦も存在感を示し、バドミントンは「男子シングルス・男子ダブルス」で優勝、卓球は「男子シングルス・女子シングルス」で優勝、「女子シングルス・男子ダブルス」で3位と活躍を見せました。

普段見ることのない勝負の様子に釘付けでした。

次回(令和9年度)のスポーツ大会は、奈良県で開催されま



す。この大会での新たな出会いと経験を活かして、愛知農大生として、さらに成長していくことを期待しています。



令和8年6月6日(土)、20日(土)、7月28日(火)、8月25日(火)に「オープンキャンパス2026」を開催し、農業大学校への入学に関心のある多くの高校生・保護者の方が参加されました。

参加者は、大講義室で農大の特色、入試に関する情報、就職先などの説明を受けた後、キャンパスツアーで広大な敷地にある実習ほ場、施設や学生寮を見学しました。その際、学生もス

オープンキャンパス2026を開催



タッフとして同行し、積極的にコミュニケーションを取っていました。

農大産のミニトマトやブドウを試食した後に在校生との交流を行い、参加者から出された実習の内容、寮生活、クラブ活動、アルバイト等の質問に対し、自らの経験を踏まえて説明していました。

また、希望者を対象に、寮食堂にて学生に交じって昼食を食べていただき、普段の農大生の



生活の一部を体験してもらうことができました。

参加者からは、「在校生と話すことができ、生の声が聞けて良かった」、「寮の中も見学できてよかった」などの感想が寄せられました。

より多くの方に農大に入学してもらえよう、令和9年2月6日(土)にも冬季のオープンキャンパスを開催します。夏に実施したプログラムとは異なり、希望のコース別に分かれて少人数での専門体験を行う形式です。専攻の実習体験を受け、普段高校等では触れることの少ない専門機器の操作や学生との交流を通じ、より踏み込んだ学びを体験していただく予定です。

企画研修部の各種研修の紹介

企画研修部では、農業者の経営改善に関する知識・技術・技能の習得を目的とした研修や、本県の農業に対する県民の理解と関心を深めるための研修を実施しています。令和8年度の研修の総定員数は約2200名です。

【1 農業者生涯教育研修】

農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。

○担い手の確保を目的とした2つの長期研修

8～10か月間に及ぶ長期研修として、①農業所得250万円以上を目標としたUターン就農者や農外からの新規参入者が対象の「ニューファーマーズ研修」、②離職者の公共職業訓練の位置づけで三河高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として実施している「農業技術研修」があります。

○農業者の経営発展段階に応じた研修

知識や新技術等をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」等を実施しています。「生産高度化研修」



農業技術研修

では、部門別に企画する11講座に加え、昨年度から新たに有機農業に関する公開講座を開催しています。

また、経営のノウハウを体系的に学ぶ「あいち農業経営塾」や、女性農業者の活躍促進のための「女性農業者支援研修」等を開講し、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた農業者の育成を図っています。

【2 農業機械研修】

農業機械研修では、農耕車限定の大型特殊自動車・けん引免許が取得できる「大特免許研修」、「けん引免許研修」のほか、労働安全衛生法に基づく講習又は教育修了証が受領できる



農業機械研修（大型特殊免許）

「フォークリフト研修」、「小型車両系建設機械研修」、「刈払機研修」等を実施しています。

免許や資格の取得につながる研修は人気が高く、抽選により受講者を決定するものもあります。就農を予定している学生には、積極的な受講を呼びかけています。

【3 農業理解研修】

県民の方々が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得ることで、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。「農業体験学習」は、農業に親しみ理解を深めてもらうため、園児や児童等を対象に農大の生産施設の見学などを実施しています。

また、農福連携を推進するため、福祉事業所職員を対象に、農産物の栽培技術や知識の習得

令和8年度の研修一覧（企画研修部）

研修名		回数	定員
農業者生涯教育	ニューファーマーズ	—	20
	農業技術	—	30
	経営管理	4	180
	生産高度化	12	1,085
	女性農業者支援	2	200
	あいち農業経営塾	—	20
農業機械	大特免許	8	156
	けん引免許	2	24
	トラクター作業	2	24
	フォークリフト	2	56
	小型車両系建設機械	2	52
	刈払機	1	24
	トラクター利用研修	1	10
	農業理解講座	—	300
	農福連携支援	—	15
合計		—	2,196

就農相談窓口のご案内

就農企画科内に設置された農起業支援ステーションは就農相談の一次相談窓口として新しく農業を始めた方を支援しています。

を目的とした「農福連携支援研修」を実施しています。



農業理解講座

「あいち農林漁業スタートガイド あいちから」

ます。就農を考えている方は農業大学のWebページから、就農説明会にお申し込みください。

県では、就業前に必要な情報をまるごと集めたプラットフォームとして「あいち農林漁業スタートガイド あいちから」を今年2月に新たに開設しました。就業を考え始めたばかりの方が抱く「知りたいこと」を分かりやすく伝え、はじめの一步を後押しします。

就農までの流れや先輩農家の記事などの情報が掲載されていますので、ぜひご利用ください。



農学科の令和7年度卒業論文 発表会を開催しました

農学科の卒業論文発表会を令和7年12月16日(火)、大講義室にて全校をあげて開催しました。当日は農業高校の先生にも参加していただきました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでいます。学生自らが農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題とし、様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文発表会はその成果を専攻毎に選ばれた2年生9名(養豚・養鶏専攻からは2名)が10分間の発表を行うもので、自分の取り組んできたテーマを全学生の前で発表できる絶好の機会です。

いずれの発表者も、専攻の代表であるという自覚と責任を持って、完成度の高い発表を行いました。審査は、島岡校長始め4名の審査員が「発表内容」、「発表方法及び態度」、「質疑に対する応答」の各審査項目に基づいて実施し、最優秀賞1名と優秀賞2名を選出しました。各賞の受賞者は以下のとおりです。

最優秀賞・潮見夢葉(養豚・養鶏専攻)「環境衛生向上による豚胸膜肺炎のコントロール」

優秀賞・山本杏桜(酪農専攻)「外部乳頭シールと毛刈りの併用による乳房炎対策」

優秀賞・内藤愛陽(切花専攻)「バラの芽整理が品質・収穫本数に及ぼす影響」

審査委員長である島岡校長は講評の中で、「現場の課題に対する的確なテーマ設定を始め、技術の実効性の検証、結果の取りまとめ、考察に至るまで、全般的に極めて良くできていました」と述べ、発表者や論文作成に関わった専攻関係者の労をねぎらいました。

なお、最優秀賞に輝いた潮見さんは、令和8年1月15・16日の開催の「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」に本校代表として出場しました。



受賞者と発表者

オーストラリアへの海外派遣研修を実施しました

令和8年1月26日(月)から2月1日(日)までの6泊7日で令和7年度海外派遣研修を実施しました。学生達は真夏のオーストラリアで農業事情を学び、言葉の壁を乗り越えながら、ホストファミリーとの絆を深めることができました。往路途中にベトナムも訪れ、様々な国の文化も学ぶことができました。参加した2年生73名は、異なる文化や生活習慣に戸惑いつつも、日本では得られない文化や体験を享受できたことは一生の思い出になったと思います。卒業後もこの経験を活かしてくれることを期待しています。

ベトナムー異文化との出会い

往路途中のホーチミンでは中央郵便局を視察しました。バス移動中には街中を走るバイクの多さに驚き、日本との生活環境の違いを実感しました。短い滞在ながらも異文化に触れ、国際的な視野を広げる機会となりました。

ホストファミリーとの交流

ボーラルでは3〜5名のグループに分かれてファームステイを行い、ホストファミリーの家庭で生活を共にしました。言葉の壁を乗り越えながら、食事や

交流を通して絆を深めることができました。



ボーラルでファームステイ

ファームステイでは農作業のほか、食事作りやお菓子作り、農家見学など幅広い体験を行いました。また、カンガルーなどの野生動物に触れる機会もあり、オーストラリアならではの自然環境を体感しました。ホストファミリーからは学生の積極的な姿勢を評価いただき、充実した研修となりました。

シドニー探訪

シドニーではオペラハウスの見学や市内観光を行いました。自由行動では、ボンダイビーチやタロンガ動物園を巡るコース、大自然を体感するコースのいずれ

かに参加し、それぞれの視点からオーストラリアの魅力を学びました。都市と自然の両面を体験できた貴重な時間となりました。



令和7年度卒業式

教育部農学科では、令和7年度卒業式を3月6日（金）に挙行し、75名の学生が本校を巣立ちました。当日は晴天に恵まれ、卒業生の門出を祝福するような穏やかな一日となりました。

卒業生は、専攻実習や農家派遣実習、プロジェクト活動、海外派遣研修、体育祭や農大祭、学生寮での生活など、2年間の大学校生活での多彩な経験を胸に、厳肅な雰囲気の中、式典に臨みました。

式典では、卒業生全員の名前が呼ばれた後、島岡校長から卒業生総代・宮本茜さんに卒業証書が授与されました。続いて、成績優秀者や実習に精励した学生に対し、県知事賞や大学校長賞などの表彰が行われました。

その後、校長式辞に続いて、愛知県知事代理の五十嵐農業水産局長が、及び野田同窓会長から心温まる祝辞をいただきました。

在校生代表として、作物専攻1年



の左右田倫子さんが卒業生への感謝と励ましを込めた送辞を述べ、続いて露地野菜専攻の星井曉名さんが2年間の思い出と今後の決意を語る答辞を述べました。式は静かに、しかし温かく閉式となりました。



表彰状受賞者

優秀賞

〔愛知県知事賞〕

宮本 茜 教育部農学科

露地野菜専攻

〔大学校長賞〕

岩田 悠良 教育部農学科

施設野菜専攻

渡辺 拓海 教育部農学科

露地野菜専攻

小阪 壮 教育部農学科

鉢物・緑花木専攻

奨励賞

〔大学校長賞〕

若林 怜輝 教育部農学科

鉢物・緑花木専攻

内藤 愛陽 教育部農学科

切花専攻

川田 恭平 教育部農学科

作物専攻

松井 羅惟 教育部農学科

果樹専攻

森 将悟 教育部農学科

露地野菜専攻

前田 宙輝 教育部農学科

施設野菜専攻

間瀬 翔 教育部農学科

酪農専攻

潮見 夢葉 教育部農学科

養豚・養鶏専攻

特別賞

〔大学校長賞〕

庄司 充希 教育部農学科

施設野菜専攻

全国農業大学校協議会長賞

星井 暁名 教育部農学科

露地野菜専攻

農業大学校同窓会全国連盟会長賞

大場 丈泰 教育部農学科

露地野菜専攻

農業大学の職員

（令和八年七月一日現在）○印は異動の職員

○校長 加藤 友康

○副校長 鈴木 潤

〔管理課〕

課長 寺尾 桂子

主幹 山口 芳輝

課長補佐 伊藤 泰江

主任 車田 昂平

主事 熊谷 早苗

○再任用 大羽 弘泰

加藤 涼子

○非常勤 平田 久士

〔教育部〕

○部長 柳田 美紀

科長 野村 和美

○総括専門員 蜷川 貴大

○主任専門員 林 大介

○主事 鈴木 修市

坂口 卓司

非常勤 辻 邦夫

非常勤 山下 篤

非常勤 田口 延行

非常勤 宇野 滋晃

非常勤 平田 久士

○（兼）科長 田中 俊光

科長補佐（花きG班長）

主任 佐久真ひろみ

主幹 野田 輝夫

主事 加藤 直也

○技師 田中 咲良

坂下 健

非常勤 科長補佐（作物果樹G班長）

落合 幾美

○技師 佐野 達也

影山 舞子

○非常勤 大澤 史季

水野 英之

○技師

杉浦 直樹

○技師 三浦 建人

非常勤 鶴田 瑞穂

○科長補佐（野菜G班長）

丹羽 昌二

専門員 嶋本 千晶

○専門員 荒井 俊介

主任 則竹 伸哉

技師 小島 優作

再任用 金沢 輝芳

科長補佐（畜産G班長）

山本るみ子

○専門員 中村 星太

○専門員 中務 桂佑

主任 鳥居 雅樹

非常勤 柳澤 淳二

井戸 咲良

○（兼）部長 鈴木 潤

（就農企画課）

科長 玉越千賀子

主任専門員 西川 幸広

○専門員 森本 健次

主任 中坊 昌也

○科長 齋藤 勉

専門員 高木 俊輔

主任 福田 充洋

○主任 藤田 真道

豊島 浩一

再任用 梶田 靖

非常勤 福井 敏幸

非常勤 大谷 雅子

非常勤 水野 英之

令和7年度 会計決算報告

1 令和7年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,427,136	1,770,451	656,685	自令和7.1.1 至令和7.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
会費	1,740,000	1,720,000	△ 20,000	農学科86名 (@20,000円)
雑収入	131	1,679	1,548	預金利息 7.2.16 351円 7.8.26 1,328円
繰越金	705,457	705,457	0	前年度より繰越
計	2,445,588	2,427,136	△ 18,452	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
全国連盟会費	59,770	58,770	1,000	会員割 20,000円 学生1名 500円×76名 振込手数料 770円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会活動費	21,100	0	21,100	
旅費	90,000	78,730	11,270	・全国連盟同窓会会長会議・総会 ・東海近畿ブロック校長・同窓 会会長会議
事務用品費	40,000	720	39,280	事務用切手代
会報発行費	831,000	894,416	△ 63,416	同窓会報第41号印刷・発送
会議費	120,000	112,975	7,025	役員会1回 7,120 理事会1回 72.7 開催費等 (旅費、昼食代、謝礼等)
賃金	11,000	0	11,000	
記念品費	191,400	254,040	△ 62,640	卒業生記念品(ピンバッジ、 名刺入れ、図書カード)
表彰費	70,000	0	70,000	会員表彰記念品 (該当者なし)
個人情報 業務委託費	155,000	154,770	230	会員データ年間管理料 154,000円 振込手数料 770円
交際費	10,000	0	10,000	慶弔電報代
繰出金	200,000	200,000	0	創立記念基金 200,000円
予備費	636,318	16,030	620,288	オープンキャンパス試食品費
計	2,445,588	1,770,451	675,137	

2 令和7年度 創立記念基金会計収支決算

(1) 普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
5,007,573	4,307,573	700,000	自令和7.1.1 至令和7.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	361	4,808	4,447	7.2.16 1,947円 7.8.26 2,861円
繰越金	4,802,765	4,802,765	0	前年度より繰越
計	5,003,126	5,007,573	4,447	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
記念事業費	1,760,337	1,324,372	435,965	農大寄贈品(学習用 椅子、農大案内看板)
繰出金	2,742,789	2,983,201		定期預金へ繰出
予備費	500,000	0	500,000	
計	5,003,126	4,307,573	935,965	

(2) 定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
3,483,939	0	3,483,939	自令和7.1.1 至令和7.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	2,742,789	2,983,201	240,412	普通預金から繰入
預金利息	50	9	△ 41	7.2.5 9円
繰越金	500,729	500,729	0	前年度より繰越
計	3,243,568	3,483,939	240,371	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	3,243,568	0	3,243,568	
計	3,243,568	0	3,243,568	

令和8年度 会計予算

1 令和8年度 一般会計収支予算

収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
会 費	1,500,000	1,740,000	△ 240,000	農学科 75名
雑 収 入	1,679	131	1,548	預金利息(2月・8月)
繰 越 金	656,685	705,457	△ 48,772	前年度より繰越
計	2,158,364	2,445,588	△ 287,224	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
全国連盟会費	65,770	59,770	6,000	会員制 20,000円 学生1名 500円×90名 振込手数料 770円
支部活動費	10,000	10,000	0	5,000円×2支部
技術部会活動費	21,100	21,100	0	10,000円×2支部 振込手数料 550円×2
旅 費	90,000	90,000	0	東海近畿ブロック 会議、全国連盟総 会の出席旅費
事務用品費	40,000	40,000	0	文具等
会報発行費	895,000	831,000	64,000	同窓会報発行・ 発送
会 議 費	120,000	120,000	0	役員会、理事会 開催費
賃 金	11,000	11,000	0	
記念品費	165,000	191,400	△ 26,400	卒業生記念品代 75名
表 彰 費	70,000	70,000	0	同窓会員の表彰 記念品代
個人情報 業務委託費	155,000	155,000	0	会員データ年間管理料 154,000円 振込手数料 770円
交 際 費	10,000	10,000	0	
繰 出 金	200,000	200,000	0	開設記念基金 200,000円
予 備 費	305,494	636,318	△ 330,824	
計	2,158,364	2,445,588	△ 287,224	

2 令和8年度 創立記念基金会計収支予算

(1) 普通預金

収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	4,808	361	4,447	
繰 越 金	700,000	4,802,765	△ 4,102,765	前年度より繰越
計	904,808	5,003,126	△ 4,098,318	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
記念事業費	0	1,760,337	△ 1,760,337	
予 備 費	904,808	3,242,789	△ 2,337,981	
計	904,808	5,003,126	△ 4,098,318	

(2) 定期預金

収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
預金利息	50	50	0	
繰 越 金	3,483,939	500,729	2,983,210	前年度より繰越
計	3,483,989	500,779	2,983,210	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	3,483,989	500,779	2,983,210	
計	3,483,989	500,779	2,983,210	

事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、その状況を

事務局までお知らせください。

また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。

会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めていただいていた方がお見えになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所、氏名及び卒業年次を記入して農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局

同窓会長 野 田 留 美

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2

電話 (0564) 51-1602 F A X (0564) 51-4831

会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社広済堂ネクストへ会誌の發送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報（個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して、左記目的の範囲でのみ利用いたします。）

株式会社広済堂ネクストの個人情報取扱について

●いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。

・学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の發送

・同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合（同窓会会則に準じます）

●ご提供いただいた個人情報に

●提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。

●個人情報は原則として本人にかぎり、開示、訂正、削除を求めることができます。

●弊社は、当社が信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに發送作業を委託することがあります。